



フェスティバルの会場となった大府市勤労文化会館

## 平成12年度 『知多半島地域 こころの健康フェスティバル』

21世紀はこころの世紀ともいわれています。2001年3月17日、大府市勤労文化会館で、私たち一人ひとりの心の健康を考える集い『知多半島地域 こころの健康フェスティバル』が開かれました。フェスティバルには、共和病院をはじめ、当地域の医療・福祉団体、ボランティア、自治体など全部で58のメンバーが参加しています。

「昨今、人間の心のあり方が問われるさまざまな事件、子どもの虐待、青少年のおこす凶悪な犯罪など人間の心の危機を感じずにはいられません。

現在、精神医療は病院を中心とした治療から地域、家庭を含めた心のケアへ変化しています。しかし現状では精神障害に対する壁はいまだに厚く高く、社会で生活することを困難にしています。

私たちは精神障害のある人やその家族が地域でより良い生活ができるよう病気に対する理解を深め、「心の病」についての偏見をなくし、社会に根強く残る誤解を取り除くことを目的に「知多半島地域 こころの健康フェスティバル」を開催することにいたしました。」

実行委員会会長 榎本 和院長



## 知多半島地域 こころの健康フェスティバル

桜の蕾もほころびかけた3月17日、あいにくの空模様にもかかわらず会場には大勢の市民のみなさんが集まりました。以下、当日の様様をレポートしてみましょう。

フェスティバルは、午前10時、岡田寿夫副会長の開会あいさつに続き、知多市すずめ太鼓クラブのみなさん



の太鼓演奏からスタートしました。同クラブは知的障害を持つ子どもとその母親が中心になって活動しており、最近では各地のイベントなどに呼ばれその華やかなパチさばきを披露しています。当日もドントんと元気の良い演奏を聞かせてくれました。

続いては、憩いの郷の池田さんはじめ5名の方の「体験発表」がありました。発表者それぞれ置かれている立場は異なりますが、家族や医師、ヘルパーの助けを借りながら、再起を果たし、新しい人生の歩みをはじめた真剣な姿が発表から伝わり深く心に残りました。

この後、あゆみ会作業所、つくし家族会作業所、ワークルームかもめのみなさんによる歌とお芝居の発表がありました。

午前の部の最後に登場したのは、越智章仁さん。越智さんは、3歳の頃にダウン症と診断されましたが、いまは、知的障害者の作業所「ほっとハウス」

に勤務しながらピアニストとして活動を続けている異色のアーティストです。『海のように』、『マイフレンド』という2枚のCDもリリースしています。



この日は、お母さんが進行役になり、素敵な春の歌メドレーや越智さん作曲の「春」など素敵なピアノ演奏を聞かせてくれました。

また、演奏の中ほど、会場のみなさんの参加を求めて曲名あてクイズが行なわれ大いに盛り上がりました。

当日、屋外広場では、「こころふれあい市」が行なわれ、参加団体のみなさんが中心になって、バザーや自主製品の販売、模

ながらお話しくださいました。



擬店などを出店しました。共和病院は、おでんの模擬店で参加しましたが、病院のスタッフが朝5時から仕込んだだけあってなかなかの味でした。

さて、午後の部は、健康体操や劇の後、セレモニーに移りました。榎本和

会長のあいさつに続いて、福島努大府市長が「地域全体で支え合うことのできる社会の実現をめざしたい」とごあいさつされました。



午後の部の最後は、椋山女学園大学の成田義弘教授が『思春期のこころ』と題して講演されました。先生は精神医学医としての豊富な臨床経験から、最近の若者たちの心に生じているさまざまな心の病についてお話しされました。

その中で先生は、最近では女性の患者が増えていること、「恥ずかしい」「怖い」から「むかつく」「きれる」へ向った若者の心の変化をまず指摘され、思春期に起こる身体の変容、衝動のコントロール、親からの分離、同性との関係、現実的自我理想の確立、異性との関係について、具体的なケースをあげ

心健康を考えることは、自分の心を見つめ、他人を思いやることだと思えます。この日のプログラムから春の日のような参加者全員の心のあたたかさを感じました。  
(取材:大橋)



## 特定医療法人の 承認取得について

顧問 金井一臣

医療法人共和国は平成10年10月に創立40周年を迎えることができました。ここ数年間は医療法人として施設・設備や組織・人材(材ではありません)、また資金的な経営資源の活性化を図り、昨年には共和病院として(財)日本医療機能評価機構の精神科および療養型病床の病院基準における第三者評価を愛知県下で22番目の病院として認定を受けるまでに至りました。

そこで来る21世紀を迎えるにあたり地域医療への貢献と更なる発展を目指し、医療の公益性と医療経営の持続性を図るべく、財務大臣(前大蔵大臣)に特定医療法人を申請し、平成13年3月にその承認を受けたものであります。

次に特定医療法人の主たる承認要件などを説明いたします。

### 1. 医療の公益性(社会に開かれた存在)の確保

- (1)社員・理事・監事・評議員のうち理事長及びその親族の占める割合がいずれも3分の1以下であること。
- (2)社員・理事・監事・評議員に法人として特別の利益を与えないこと。これにより現職に就いていない者には給与の支給が禁止され、現職に就いている者でも高額な給与は規制される。
- (3)診療報酬が健康保険法の規定による算定額を超えないこと。また差額ベッドの割合が全体の20%以下で且つ料金が5,000円以下であること。
- (4)医療法等の違反事実がないこと。
- (5)公益性がますことにより医療施設近代化整備に係わる補助金の交付順が最優先となる。

### 2. 医療の持続性の確保

- (1)社員としての出資者は出資の払い戻し請求権を全て放棄することにより、出資持分の定めがない医療法人となる。
- (2)医療の公益性が増すことにより税制上の優遇措置が受けられる。(例:法人税30% 22%)

以上主たる項目だけに絞り、掲載いたしました。共和国は特定医療法人となった後も患者様を中心とした地域医療を基本とし、社会に貢献させていただくことを目指し、努力してまいります。

# 子育て ノウハウ

～子どもが社会に出るとき～

## 子ども

は3～4歳になれば家から保育園、幼稚園という社会に出ていかなければなりません。いつも母親が傍らにいて必要なときには応えてくれ、見守ってもらえるという安心感がありましたが、入園(入学)をきっかけに家庭から離れ、新しい集団の場に置いていかれたという不安を持ちます。大学生や新社会人は入学や入社から1ヶ月経った5月頃になると元気がなくなり、落ち込んだり学校に行けなくなったり、仕事をつまらなく感じたりすることがあります。この現象を「五月病」と言いますが、子どもにも同じような体験が起こるのでしょうか? 以前「お母さんは子どもの基地」について述べましたが、ほどほどに母と子の距離がとれ、お母さんとの関係が揺るぎのないものと認知している子どもは、園にいても母親が家で待っていることを信じ、安心して園での生活を楽しみ、学び、新しい体験や人間関係を持つことができます。しかし過去に母親との関係が不安定であった子どもの場合や予期せぬ母親の不在を経験した子どもは、その不安が学習され母親への依存や分離への恐怖(分離不安)が生まれます。また親は入園や入学を迎える子どもに対し、一人前に振る舞うことを期待します。子どもには成熟した面と幼い面があり、母親が成熟した面のみに目を向け、期待をすると子どももそれに応えようとするのですが、負担が多くなり、入園、入学してやれやれした頃に破綻することになります。これらの状況を乗り越えるためには子どもの持つ成熟面と幼若面双方に目を向け、少しずつ赤ちゃんの面を受け入れながら手を抜き、一方成熟した面については過度な期待を避け「甘えていいんだよ」のメッセージを与え、子どもの様々な面に対して中立な視点に立って接していく必要があるのです。入園、入学してやっと環境に慣れ、ほっとしているとき、子どももお母さんも「五月病」にならないために疲れを充分に取り、頑張りとうとせず楽しいことを取り入れ、子どもの話に耳を傾け一緒に行動する時間を少し増やしてみたいかがでしょうか。

院長 榎本 和

## 編集後記

いよいよ春本番。

4月は入学、入社と新入生がひかっています。新年度の始まりで新しいことを学んで、何でも始めるのにふさわしい季節です。希望と期待、そして不安と緊張もあるかと思いますが、是非、どんなことにも挑戦していく若さを持ち続けたいと思います。慌ただしかった年度末を終え広報誌春号を無事に発刊することが出来ました。“季節が変わるのでそろそろ届くね”と期待



してくださる声を聞くと広報誌委員としてホッとしています。と、云うわけで新年度もご愛読のほどを宜しくお願いいたします。

### 赤い羽根共同募金事業完了のお知らせ

グループホームみどりの家にH12年度共同募金配分が決定しこの配分金で水洗トイレに改修を行うことができました。寄付者の皆様、関係者の皆様ありがとうございました。



# がんの 早期診断と 予防

新しい年度が始まりましたが、景気も依然として停滞気味で、気分も晴々しない今日この頃です。何かと気忙しく、周囲の色々な出来事に気を使い、その中でつい忘れがちになっているのが自分自身の健康管理です。今回はある意味で「生活習慣病」の1つともいえる「がん」について話をしてみましょう。

3人に1人が癌で亡くなる時代となりました。最近(1999年)の厚生省の人口動態統計によると癌での死亡は年間29万人強となっており、総死亡数の29.6%を占めています。癌の死亡総数は前年と比べると6,600人程と増加傾向にあります。ちなみに癌の死亡数で一番多いのが肺癌、次いで胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌という順番になっています。

「がん」に有効な治療と予防はないのでしょうか? 抗癌剤、放射線治療も以前に較べ確実に進歩はしていますが、残念ながら一部の癌の治療を除き進行癌に対しては悲観的であるのが現状です。となりますと大事なことは早期発見・早期治療であります。最近では、検診・人間ドックにおいては検査機器や医療技術の発達により検査の精度も格段にアップしています。自覚症状が何もない健康な人が受診し、早期発見により、的確な治療がなされ完治した癌も数多く聞かれるようになりました。特に「がん」になりやすい体質

(遺伝的、生活習慣的の等)をもつ「ハイリスクグループ」の方などは毎年1回の受診を勧めます。以下に一般に行われている「がん検診」について簡単に羅列してみました。

**胃癌検診:**バリウムを飲んで造影X線検査が行われる。確定診断には内視鏡による2次検査が必要となる。

**肝臓癌・膵臓癌検診:**超音波検査(エコー)が行われる。血液検査は早期癌においては必ずしも異常がみられるとは限らない。

**子宮癌検診:**子宮頸癌に対しては細胞診による検診が有用であるが、子宮体癌に対しては有効な方法があるとはいえないのが現状。

**乳癌検診:**視触診による検診。マンモグラフィによる有用性が証明されている。

**肺癌検診:**単純X線検査、喀痰検査が行われているが限界が指摘されており、コストの問題があるものの、ヘルICALCT検査の有用性が提唱されている。

**大腸癌検診:**便潜血検査による。精検は注腸X線検査・大腸内視鏡検査が必要。

**前立腺癌検診:**血液中の「腫瘍マーカー」を調べる検査と直腸診による。さていかがでしょうか? 多くの方が一度は経験されていると思いますが「一度だけ」では意味がなく、これを毎年継続していくことも大切なことなのです。最後に「がん」の予防について、癌の15か条(出典:世界がん研究基金・米国がん研究会)を添えました。これを参考にしながら生活習慣を改善することも重要ではないかと思ます。

## 癌の予防15か条

### 【食品の供給、食事、関連因子】

食品と食事...植物性食品を中心に体重の維持...BMIが21~23の範囲に収まるように5kg以上体重が増加しないようにBMI=体重(kg)÷身長(m)<sup>2</sup>。22が標準体重運動の維持...仕事であまり体を動かさない場合は、1日1時間の早足歩行と週に1時間の強い運動を

### 【食品と飲料】

野菜、果物類...色々な野菜や果物を1日に400~800g程度摂取する他の植物性食品...穀類、豆類、根菜類を1日に600~800g程度摂取する。なるべく精製していないものをアルコール飲料...積極的に飲めないが、飲むなら1日に男性で2杯(日本酒換算で1合)、女性では1杯(日本酒換算で5勺)まで肉類...赤肉は1日に80g以下、牛肉より魚肉、鶏肉がよい全脂肪、油脂...動物性の脂っこい食品をなくして、植物性脂肪を適度に摂取する

### 【食品加工】

食塩...1日に6g以下、塩辛い食品を避けて、ハーブやスパイスで調味する貯蔵...かびがはえないように貯蔵する。室温で長時間置かれたものは避ける保存...腐敗しやすい食品は冷蔵、冷凍保存する添加物、残留物...食品添加物、残留農薬などは規制値以下なら健康に害はない料理...揚げた肉、魚などを避ける。なるべく直火で調理しない

### 【栄養補助食品】

栄養補助食品...この勧告に従えば栄養補助食品は不要である

### 【タバコ】

タバコ...タバコを吸わない



共和会理念・基本方針

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは! 患者様に安心と満足を提供する医療良質且つ効率的な医療の提供患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは! 毎日の出勤が楽しくなる職場職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場職員の満足が患者様へ反映される職場

## 当院をご利用の皆様へ

わたくしたちは、利用者の皆さまへより良い医療をやさしく安全に提供し、納得のいく医療を受けていただくために努力しています。それには利用者の皆さまと医療者の意志の疎通が最も重要であると考えます。これを実現するために、わたしたちは思いやりのある、人格を尊重した医療を提供するとともに、以下のような医療を目指しています。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。

病院長 榎本 和



医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

## 俳句コーナー

名譽院長 加藤 邦之助

董程な  
小さき人に  
生まれたし  
漱石

明治二十二年子規と知り合うて俳句を作る様になり、明治二十八年肺結核の初期の子規が日清戦争に従軍し病氣再発して帰国、そのまま松山の中学教師の漱石の下宿に転がり込み、居座ってしまい毎日俳句の連中が集まってくるのに刺激され漱石も俳句に熱中し、二年後には俳壇でも有名となって来ました。

明治三十年は番販がのて多作した年で、この句も熊本で結婚して二年目、生活も落ち着いて来た頃出来た句だと思えます。この頃将来大文豪になることなど考えてもいながらたのでしよう。「小さき」というのは、董の清らかで美しい」と云う意味で、物欲のない、穢れない人に生まれたいという願望であつたのでしよう。後年、大学教授も捨て、文学博士も固辞した漱石の心がよく理解できます。